

## 留学報告書 2025年度 交換留学

外国語学科 スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻

3年次 鈴木香音

私は2025年3月から2026年2月の約1年間、韓国外国語大学に留学をしました。韓国外国語大学はソウルの中でも観光街から少し離れた場所に位置しており、落ち着いて生活しやすい環境にあります。大学周辺には地下鉄の駅やバス停があり、交通網も整っているため、市内中心部にもアクセスしやすい環境でした。そのため、日常生活と外出のどちらも不便を感じることはほとんどありませんでした。大学では学内にある学生寮で生活しました。大学自体が比較的コンパクトな大学であるため、授業の移動もスムーズに行うことができました。寮は2人部屋で、料理はできないものの、各部屋にトイレ、シャワー室、冷蔵庫が備え付けられており、生活面で大きな不自由はありませんでした。寮内には、コンビニ、ジム、自習室、洗濯室などの施設も完備されています。

授業に関しては、語学学校には通わず、大学の正規授業のみを受講しました。留学先では所属専攻が定められていなかったため、天理大学で専攻しているスペイン語やスペイン語圏の文化史に加え、以前から関心のあった、日韓政治、日本経済、韓国社会、文化、歴史に関する授業を履修しました。スペイン語の授業を除き、すべての授業は韓国語で行われ、試験やレポート課題も韓国語で実施されました。特に印象に残っているのは、日韓政治に関する授業です。討論や韓国人学生とグループを組んで発表を行うチームプロジェクトを通じて、日韓関係を日本と韓国の双方の視点から見つめ直す機会となりました。また、専門的なテーマについて韓国語で自分の意見を伝える力を養うことができた点も、大きな成果であったと感じています。一方で、最も苦労した授業はスペイン語作文の授業でした。これまで日本語を通してスペイン語を学んできましたが、留学中は韓国語でスペイン語を学ぶ環境となり、スペイン語の文章を韓国語に、韓国語の文章をスペイン語にする中で、二つの言語に対する理解が深まり、結果的には語学力向上につながったと感じています。ただし試験前には、スペイン語と韓国語の両方を復讐し直す必要があり、韓国人学生の二倍、三倍の時間をかけて勉強した授業だったと思います。

スペイン語専攻で韓国留学を選択したことについては、非常に意義のある選択だったと考えています。一見すると関連が薄いように思われがちですが、第三言語を異なる言語環境で学ぶことで、複数の言語と文化を横断的に学ぶ経験が、今後の学修や進路を考える上で大きな強みになると考えています。

最後に、留学を考えている学生の方は、まず「自分が留学を通して何をしたいのか」をじっくり考える時間を持って欲しいです。語学そのものを集中的に学びたいのか、それとも語

学を手段として、政治や経済、文化、歴史など他の分野を学びたいのか、明確な答えが見つからなくても、何に悩んでいるのかを自覚すること自体が、留学を考える上で大きな意味を持つと感じました。

また、留学中は自分の部屋から出て、人、場所、ものなど、できるだけ多くのことに触れる機会を持って欲しいです。授業だけではなく、友人との会話や街を歩く中で得られる気づきは、留学生生活をより豊かなものにしてくれます。自由に使える時間がこれだけ多くあるのは学生のうちだけであり、「後で旅行すればいい」と考えるのではなく、時間に余裕のある留学中こそ積極的に行動することが大切だと思います。さらに、これから留学を考えている学生、特に交換留学を考えている学生は、できるだけ早い段階から成績管理を意識しておくこともおすすめしたいです。留学の選択肢や奨学金の幅を広げるためにも、日頃から学業に真剣に取り組むことは、将来の自分にとって大きな助けになります。ぜひみなさん留学に挑戦してみてください。